

CQ にいつ

2022年9月号・通算第224号 発行責任者：新津クラブ会長

おもな内容 & 今後の予定

- ◎ 各イベントの報告
- ◎ 皆さんからの投稿
- ◎ 最新情報 & 行事予定
- ◎ **10月2日(日) アイボール・ミーティングです。**
- ◎ クラブ役員体制について
- ◎ JARL 県支部大会の報告
- ◎ 各コンテストに入賞できました。



にいつクラブ各局、いかがお過ごしでしょうか。

一番のアクティブ・シーズンが到来しています。楽しんでいきましょう!

表紙は3年ぶりに開催された JARL 県支部大会のショットです。

さて、今シーズンも、クラブ各局とともに、ハムライフを楽しんでいきましょう。

ロールコールは、**毎週水曜日 20:20~**です。(ミーティングのある週はありません)

周波数は **145.22MHz** です。Google Meet・放課後の方もヨロシクです!

JA0YMP/新津クラブメーリングリストで、情報発信中!

【第52回新津クラブ総会結果報告（文書表決総会）】

会長 JH0OPR/森田

クラブ員 各位

第52回 クラブ総会（文書表決総会）のご連絡です。

文書表決総会の資料（議案）については「承認します」が多数となり、「議決」されました。

内訳については下記のとおりです。

クラブ員数 24名（内家族会員1名） 意志の表明者 18名 承認します 18名

異議あり 0名 質問受付期間中の質問はありませんでした。

*クラブ会則によると、総会はクラブ員の1/3以上の出席が必要、議案は出席者の半数を超えた賛成が必要となっています。

なお役員は再任となりました。よろしくお願いいたします。

会長: JH0OPR/ 森田

副会長: JFODTN/ 落合（移動）

理事: JA0BUH / 田中（ミーティング）

理事: JRONVX / 帆苅（IT 担当・移動）

会計: JGOXPL / 井浦（会計）

役員: JG00JC / 古谷（移動・ロールコール）

監事: JH0JVA / 高橋（監査・会報）

【6月の移動運用開催される】

コロナ禍で2年間開催していなかった移動運用が3年ぶりに開催されました。

例年開催していた、信濃川バレー・親水レクリエーション広場にクラブ員11名が集まり、楽しい時間を過ごすことができました。

久しぶりの屋外に集合してのイベント開催になり、コロナ禍により自宅で静かにロックダウンをしていた方も参加し、無線のQSOよりアイボールQSOが楽しいと話が弾み、心のロックを開放して笑顔を取り戻していました。

今後の反省点

- ・今年先客の100名を超える団体が芝生エリアで競技試合をしており、場所と時間がバテイングしてしまいました。
- ・いつも以上の利用者があり、駐車場も満杯となり、車両を止める場所を確保するのに苦労しました。
- ・踏みたて君でアンテナを建てましたが、重たいアンテナを建てると風に吹かれてゆれると倒れて車両に傷をつけてしまうのではないかと心配でした、それ以上に人間の上に倒れてケガを負わせるの大問題になる。一日限りの保険が必要かな？
- ・午後開始では時間が足りない、やはり9時~10時ころに集合して作業開始したほうがゆったりと楽しめるのではないかと、という意見もありました。

なお、CQ誌9月号のローカルトピックスに当日の集合写真が掲載されています。

【自作のススメ】

アマチュア無線技士の免許所持者は、故障した無線機のふたを開けて内部を自分で修理・調整ができるのです。

故障にはむずかしい故障、簡単な故障と様々ですが、自分で修理できる簡単な故障ならば自分で直せば便利ですね。

簡単な故障を直すようにできるには電子回路を自作して経験を積むのが早道です。自作をやるとハンダ付を終えて、スイッチをONしても動かない、音も出ない、とい症状に出会うことがあります。

チャンス到来です。なぜ動かないのか、動作しないのか、原因はどこにあるのかと探索を開始します。部品は指定の位置に取り付けられているのか、極性のある部品の向きは合っているのか、トランジスターの足は間違いなく取り付けられているのか、配線は間違っていないのか、ハンダ付はきれいにされて光沢があるのか、いろいろなチェックを経験し覚えていくこととなります。

さらに自作の場合、故障の状態は自作するたびに症状が変化することがあります、つまり初めての故障に出会うこととなります、自作の楽しさは初めての故障に出会うということ、自作の腕が上がってくると上級の自作に挑戦したくなります。そこでまた違う故障に出会うことになりいつでも新鮮な出会いがあります。

自作していくと無線機の構成も理解できるようになり、運用も楽しくなります。新鮮な出会いが長続きの秘訣です。

【新津クラブはいつまで存続可能か】

文書総会前にクラブ員の名前と顔を想像していて、大部分の方が高齢者と言われる年代ではないかと考えています。

いまは日本の人口が縮小する時代に突入し、各地の町内会、いろいろな趣味の会などのサークルも会員の高齢化とともに活動できる方々が減少し、役員の成り手が見つけられずに解散しています。

アマチュア無線の世界も同様で、若者世代の無線従事者数が非常に少なくなっています。

ネット時代に育った若者は、文字通信は平気でどんどんやるが、電話で直接会話することを敬遠する傾向があります。知らない人と会話するのが恐怖と言う方も多いのです。こういう若者をアマチュア無線の世界に招き入れるのも苦勞するネット時代です。

全国のアマチュア無線のクラブも会員数の減少と同時に、役員の成り手が見つからずに解散、またクラブ報の製作においても原稿を集めるの四苦八苦して発行できなくなっています。

アマチュア無線の将来を担う若者を育てて、クラブに入会してもらわないと新津クラブの未来はありえないと思っています。

【新津クラブの公的な申請が必要なもの】

新津クラブを例にとると、ミーティング会場を借りる場合に、新潟市から社会教育団体として利用料の減免措置を受けています。

社会教育団体としての減免措置を受けるための条件、

- 1 クラブの会計が総会を開いてキッチリと会計処理がされているか、
- 2 クラブの会報が定期的に発行されているのか、
- 3 クラブ員名簿が管理されてクラブとしての実態があるのか、
- 4 会則（定款）が作成されているのか、

上記書類を新津地区公民館に提出し審査されています。

社会教育団体の登録は1年間で、更新の手続きを1年毎にしていかなないと、減免措置を受けることができません。

新津クラブはJARL登録の地域クラブです、

JARL登録クラブの申請は2年毎に更新申請の必要があります。

更新申請にはクラブ名、代表者氏名、代表者のコールサイン、クラブの会員数、会員数のうち何人がJARL会員であるかを、新潟県支部を通じてJARL本部へ申請を出します。提出すると審査の上、継続して登録クラブとなることが可能です。

登録クラブの代表者はJARL会員でなければなりません。

登録クラブになるとJARLの行事等に協力することとなります。

また、登録クラブになると、JARLのメールサーバーを利用するJARLメーリングリストのサービスを利用することができます。

メーリングリストのサービスはJARL本部から登録クラブの代表者へ貸し出されています。よって登録クラブの代表者が死亡、あるいはJARL会員でなくなればメーリングリストの利用はできなくなります。

もちろん代表者の交代があれば、その旨を連絡すれば引き続きメーリングリストは利用できます。

総合通信局への申請

理事の変更、クラブ構成員の変更、定款の変更等についての総合通信局への変更届の手続きがあります。

五泉クラブがJARL登録クラブとして復活しました。

五泉クラブが活動を停止してからかなりの年月が経過しましたが、この度、五泉クラブがJARL登録クラブとして復活しました。

ぜひ、クラブの発展を応援していきたいと思います。以前のように共同で行事をやる場合もあるかと考えますが、その際にはクラブ員のみなさんの協力をお願いします。

名 称 JARL 五泉クラブ JARL 登録番号 08-1-05 代表者の C/S JE0WYH

▼過日(22/5/8) 長峰配水場での 当クラブ員 10 名でミーティングの折 羽入 OM から IC-705 の紹介がありました。そのスペックは 新機能の「天子盛り」と表現しても良いと思います。現存のフラグシップ機から欠けるものはディスプレイの外部出力端子が無いこと、最大出力が 10[W] であること位でしょう。私が開局した時は トリオのキット JR-42J & TX -88A が最高峰でした。それと比すると「月とスポン」「雲と泥」以上です。「全宇宙と地球」くらいの相違がありますね。ここで私はこの驚きを文章では書き表せません。

▼前行の「文章では書き表せません」とか「絶句しました」とかは 記事の中の文章では絶対に使ってはならない文言なんだそうです。それを文章に起こすのが記者の使命との主張でした。なるほどと感心しながら、納得した記憶があります。それに相当する記事に最近 2 件出会いました。1 件目は ウクライナで 殺害した兵士がその遺体に爆発物を埋め込んだ報道です。2 件目は 遊覧船(Kazu 1)の運航のずさんさです。もし、興味がわきましたら、当時の新聞を再読されて、どんな表現(文言)になっているのか確認されてみるのは如何でしょうか。



▼ここで、この拙文の 5 行目「私はこの驚きを文章では書き表せません。」に 挑戦してみます。

▼開局当時のモードは AM/CW だけでした。HF での SSB および VHF での FM は相当後の話です。自作から入ることになります。と、言うより、当時は完成品がなく、前述のキット 9R42J/TX88A は私の子遣いで買える金額ではありませんでした。AM(特に CW)は回路構成が非常に単純で、特に通信機器の知識がなくても、自作での運用が可能でした。今、私が高校生で IC-705 で開局したらどうなるでしょうか。当然 IC-705 の構成を理解できるはずはなく、機器には何の興味も持てず、運用だけの楽しみになります。今の人々がデジタル通信に興味があるからと言って地デジをテーマに進めるのは荷が重すぎます。その様に IC-705 で開局する中高生に そのリグのハードに興味を持てとは言えません。かと言って、AM の自作からスタートせよとも言えません。まず スプリアスの問題が発生します。今、車を買って、運転だけでなく、その構造、例えばエンジンに興味を持てと言っても、老人の戯言として一笑に付されるだけです。この辺の流れは完全に不可逆的です。これがハム人口の減少の本当の要因だと思います。ハム人口の増加は 100 円ショップで利潤を得るより難しそうです。これは 神が人類に配った 1 枚のカードです。ここで ポーカーが得意そうなスヌーピーの名言を一つ。

「配られたカードで勝負するしかないのさ。」

総務省基盤局は「ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線の活用に関する提言を公開、アドバイザリーボード」の議事次第、議事要旨もホームページに8月4日発表しました。

それによると、アマチュア無線に興味をもってもらうにはどうすればいいのか、またアマチュア無線に入門して来る若者にアマチュア無線に興味を持ち続けてもらうにはどうすればよいか、いろいろな問題を洗い出し、アマチュア無線を通じてワイヤレス人材の育成をしようとするものです。

当然、JARL会長、JARD会長はその構成員になっています。

膨大なページがあるので要点の一部だけを列挙します。

1 現在は2日間が必要な養成課程講習会の時間を短くし、1日で終了とする、また受講料金が高すぎるので小学生、中学生、高校生が受講するには親の同意が得にくい。

2 現在の体験局は利用しづらい。

小学校、中学校ではクラブ局がほとんどの学校で開設されていない。指導者もいない。

特段の手続をしなくて、有資格者の監督のもとで無資格者が体験できるように、年齢範囲を広げてもらいたい。

社団がだれでもが体験できる体験局を開設するにはその都度開局申請をしなければならないし、イベントがなければ申請もできない。

これを地域の社団局がいつでも体験運用ができるようにしてもらいたい。地域の社団局として、JARL登録地域クラブ、民間会社の社団局などがあり、これに自由に体験局を行うことを認めれば今以上の効果があるのではないか。

3 ワイヤレス人材を育成するには、無線技術に十分な知見を持つ適切な指導者が必要です。

アマチュア無線の無線従事者だけでなく、長年ワイヤレス技術に関わってこられた、放送局や航空機、船舶などの業務用の無線従事者資格を有する方と知見を活用することが必要と考える。

4 携帯電話などでは味わうことができない電波伝搬やワイヤレス技術を実際に体験し、それをきっかけとしてワイヤレス技術やデジタル技術に興味を持ってもらう機会をより増やしていく。

5 養成課程講習会での合格者、国家試験の合格者の従事者免許証と無線局の開局申請が同時に可能にしてもらいたい。

6 包括免許制度とし、すべてのアマチュア無線局に指定可能な電波の型式、周波数及び空中線電力を、無線機にかかわらず一律に指定してもらいたい。

実際の無線局の運用は開局者が所持する無線従事者免許証の資格の操作範囲内でのみ運用することになります。

7 アマチュア無線の楽しみの一つに「自作」があります。これは他の無線業務では味わうことができない楽しみの一つです。無線機の製作や製作後の改造などを手続きなしで自由にできる制度にしてもらいたい。

これは、青少年がアマチュア無線を活用した実験・研究に自由にチャレンジすることが容易にできればアマチュア無線の裾野を広げることにつながり、ワイヤレス人材やデジタル人材育成の観点からも重要と考えます。

8 移動する局と移動しない局の無線局免許状を一枚にまとめて、免許の有効期限を揃えて統一してもらいたい、無線局の管理が非常に簡単になる。

他にまだまだ資料と提言があります。総務省基盤局の下記ホームページをご覧ください。

https://www.soumu.go.jp/main_content/000828800.pdf

アドバイザリーボードの議事次第、議事要旨はこちらです。全7回分が公開されています

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/wirelessjinzai_at/

【宇宙天気予報士の資格制度創設】

アマチュア無線を楽しんでいる我々は、HF、VHF、UHFの電波の伝わり方で日々経験しているところですが、電波の伝わり方は電離層に大いに関係しています。

この度「宇宙天気予報の高度化の在り方に関する検討会報告書（案）」が公開され意見の募集が行われていました。ここで言われているのが「宇宙天気予報士の制度創設」です。

太陽活動が活発になり、太陽フレアが爆発的に増加すると、太陽から高いエネルギーを持った粒子や放射線が地球に到達し、デリンジャー現象や電波擾乱を引き起こします。

太陽フレアが爆発的に発生すると、8分後にはX線やその他の電磁波が地球に到達し、無線通信などに障害がでる、またGPSなどの測位システムの測位精度が落ちます。

さらに30分から2日後には高エネルギーの粒子が到達、人工衛星が故障し衛星通信が途絶、宇宙飛行士やジェット機のパイロットや乗客が被ばくしてしまいます。

2日から3日後には電気を帯びたガスが地球に飛来し人工衛星の軌道に変化が生じる、さらには大規模な停電も発生する、とされています。

こういった現象が発生すると、時として携帯電話、放送電波の受信不能、警察無線、防災無線が使えなくなり通信サービスの提供が困難になる。

これから導入をめざしている自動運転車も電磁波を利用しているので走行できなくなり、空を飛ぶドローンもコントロール不能、墜落の危険もある。

地上の空気が膨張することで人工衛星の空気抵抗が増し、飛行スピードが低下し地上に落ちてくることが考えられる。大規模な停電では全産業に影響が出て、社会生活も大混乱の影響を受ける。

これらの被害を防ぐためにも、太陽フレアがいつ起きるのか、どのくらいの規模で爆発するのか、地球への影響はどれだけ発生するのかを予測して、地上の天気予報のように宇宙の天気予報を行うのが「宇宙天気予報士」です。

JARL 新潟県支部大会が開催されました。

7月17日(日) 妙高市「勤労者研修センターにおいて、第50回新潟県支部大会「妙高はねうま大会」が、開催されました。今回は、JG1KTC/高尾 JARL 会長を来賓として迎えての大会となります。新津クラブからは、JH0OPR/ 森田さん、JF0DTN/落合さん、JH0JVA/高橋が、前日のクラブ代表者会議・前夜祭から参加してきました。

ご存じ通りコロナ禍のため3年ぶりの大会開催で、懐かしい方々と、久しぶりにアイボールできて楽しい時間を過ごすことができました。

3年度支部報告・4年度事業計画説明 質疑応答・表彰と進行し、お昼をはさんで、午後からは、JA0ARF/横田 OM による「世界 10,000 局アワード」体験談の講演です。噂には聞いていたアワードですが、やはり QSL のチェック・維持・管理も並大抵ではないですね。感心しました。

また、JG1KTC/高尾 JARL 会長による「JARL の現状と最近の取り組み」の講話でした。

こちらも普段は見えない情報ですが、少しずつ良い方向に JARL は改善しているようです。非常にわかりやすく説明して感心しました。

また、新津クラブは、第59回 JA0-VHF コンテスト・第69回 JA0-OSO コンテストで入賞し、表彰を受けることができました。

各局の御協力、ありがとうございました。



来年の JARL 新潟支部大会は、新しい開催方法、また、新しい体制でスタートする予定となっています。開催地などは、未定ですがわかり次第、お知らせしたいと思います。

8月20日、初日に開催されたハムフェア2022に行ってきました。 JH0JVA/高橋

「ハムフェア2022」はコロナ禍で3年ぶりの開催になります。

毎日の感染者推移を見ながら、今年も中止になるかヒヤヒヤしていたのですが、ついに開催されたのでした。

今年は、東京ビッグサイト南展示棟3・4ホールとなり、奥まった会場のため前回より、よけい歩く感じです。

情報では、コロナ禍のためか来場者の総数は35,000名で前回よりも7,000名の減少だったようです。

ちょっと、例年よりブースが少ない感じでした。でも、会場は相変わらず、ハム愛好家の皆さんたちの熱気が感じられました。

各メーカーのブースも、新製品の展示で盛り上がり、私の興味がある icom ブースでは、IC-PW2 と、144Mから10GまでON AIR できる IC-905 が注目を浴びていました。

まだ、参考出展ですが、10GHzの世界はどのような伝わり方が興味がありますね。

また、イベントの講演会である「広報大使によるトークショー」、「8J1RLの運用報告」も、しっかり拝聴してきました。面白かったです。(^^)

限られた時間でしたが、ハムの祭典を満喫して

着た次第です。来年も無事、開催されるようように祈願しています。



QTC

クラブ移動運用ご苦労様でした。

6月に開催された動運用の写真が「CQ ham radio」9月号・ローカルトピックスに掲載されました。なお、新津クラブの旗が新しくなりました。コロナ禍が収束し、クラブイベントが開催できるよう祈願しています。参加された皆さん、お疲れさまでした。



8NOBUNSUI 特別局が運用されました。

2022年、大河津分水は通水100周年、関屋分水は通水50周年を迎えます。新潟県支部では特別局を開設しました。JA0YMP 新津クラブでも運用特別局運用がされました。運用された各局、ありがとうございました。

クラブミーティング、開催の連絡です。

クラブミーティングの開催を予定しています。各自、コロナ感染対策をして参加してください。

日時：2022年10月2日(日) 午後2時～午後4時30分くらいまで

午後1時30分くらいから会場の準備にかかります

場所：新潟市新津地区市民会館 第2会議室

新津クラブ編集後記

紙面でもご案内した通り、第69回 JA0-OSO クラブ対抗で、JA0YMP にいつクラブは第3位に入賞しました。

また、第59回 JA0-VHF コンテストにもクラブ対抗で第3位になることができました。

クラブ各局のご協力に感謝いたします。

JA0-VHF コンテスト・電信部門において JA0EMS/ 錦織さんが第3位に入賞されています。おめでとうございます。写真は JARL 県支部大会～「妙高はねうま大会」にて表彰を受けた様子です。



CQ にいつ

にいつクラブホームページ <http://www.ja0ymp.net/>

画像掲示版もよろしくね!!

CQ にいつ

2022年 7月号外・ 発行責任者：新津クラブ会長

おもな内容 & 今後の予定

クラブ員随時募集中!



JARL新潟県支部は50年

新津クラブは52年、楽しくなければ続かない

繋げようとしなければ繋げない

クラブ員随時募集しています。

HAMLIFE を、いっしょに楽しみましょう。



※ JARL 新潟県支部大会の冊子で、掲載しました新津クラブ紹介 PR ページです。